

(様式2-2) 令和6年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」 成果報告書

1 指定校・指定校群 (三豊市立三野津中学校)

「研究主題」 「長期的視野に立った社会的自立を目指す KSR の在り方」

～「君のことを気にかけ続けているよ」というメッセージとしてのKSR～

2 実施の内容

(1) 本校の現状と課題

- 養育環境の複雑化への対応と各関係機関との連携の必要性
- 思春期の問題行動の多様化 (リストカット・吃音・場面緘黙等)
- 発達障害の二次障害・愛着障害との混在
- 不安障害・対人恐怖症・気分障害等

(2) 専門家のアセスメントによる適切な見立てと対応

- 小中連携協議会と校内研修を兼ねた事例検討会でスーパーバイズを得る。
- 専門機関 (医療機関)・関係機関 (支援センター)・専門家との連携
- 各生徒の状態を見てSCや医療と連携し、それをもとに不登校対策委員会で対応を諮る。

3 成果

(1) 校内サポートルームにおける児童生徒の様子

- カウンセリングで「KSRが設置されて登校できる日が増えた。」と中3女子が語っている。
- 専門機関やスクールカウンセラーと連携し「支援カード」を作成して、共通理解を図ることで、全職員が生徒理解を深めて対応しようという雰囲気が出てきた。
- 一人ひとりの実態に合わせて、適切な支援ができつつあり、健康度が改善し学力も徐々に上がっている生徒も出てきた。中1男子は、リモート学習に取り組む日もある。
- どの生徒も昨年度より登校日数が増えている (小学校時代も含め)。またKSR使用開始時は、ほとんどが保護者送迎であったが、3年生2名・2年生1名は自転車登校ができるようになっている。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

- ① 登校しやすい環境にするために、登下校の動線と時間を工夫する。
- ② 全職員への回覧・共通理解 (関係機関との連携した対応を記載した支援カードの作成と回覧)
 - * 対人恐怖・対人緊張の生徒が多いので、低刺激で肯定的なあたたかい、ねぎらいの言葉を心がける。
 - * 活動内容は、本人興味の持てる軽作業 (色紙・ジェンガ・オセロなどのゲーム・漢字プリント等) 1時間程度から始める。
 - * 「先生は私のペースを守ってくれる」という安心感とラポールの形成
 - * 無理のない目標を決めて、自分の口から言えるようにし、頑張りを視覚化する。
 - * KSRの利用の条件としてSCと本人・保護者の面接を必須とし、定期的にカウンセリング (箱庭療法) を行う。

(3) 総括

- 小中連携事例検討会等の機会を生かして、教職員全体の生徒の理解を深めることで、改善しつつある生徒が増えている。
- KSRが安全度の高い部屋となり、教室復帰を目指す不登校児童生徒の学校に馴染めるリハーサル場となっている生徒もいる。
- 専門家の見立てによるアセスメントがまだ十分でなく、早期 (幼少期) からの適切なアセスメントと対応の必要性を感じる。
- 教職員の多忙感や疲弊により、効果的な場となりにくい。また、専門的な知識を持った人的充実が望まれる。
- 家庭に対してのサポートの困難さを感じている。効果的なアプローチの方法を継続して模索する必要がある。